保育内容の研究(健康)Ⅱ　丸山東人

授業概要

現代の子どもが生まれ育つ環境を客観的に眺めると、生存の可能性、すなわち死の危険にさらされる度合いの低さという点では、日本は世界最高水準に到達している。しかし、子どもの成育する過程は決して良いものとは言えない。子ども虐待、いじめ、学力低下、体力低下、生活習慣の乱れ、心身症、コミュニケーション能力の低下、貧困、事故や犯罪との遭遇等、深刻な課題がなお多く存在している。

こうした中、保育者が子どもの健康な心と体を育てることが出来るようになること、そして、子ども自身が健康について学び、考え、その結果、生きる力を自ら育めるように支援することは、今後一層求められることである。

この授業では、科学的かつ実践的立場から子どもの健康を見つめ、援助のあり方を議論してゆく。

授業計画

第１回	ガイダンス
第２回	健康のとらえ方
第３回	子どもの健康問題の時代推移
第４回	領域「健康」の理解と位置づけ
第５回	発育・発達（身体（3 歳まで））
第６回	発育・発達（身体（3 歳以降））
第７回	発達・発育（認知）
第８回	発達・発育（子どもの心と健康）
第９回	発達・発育（パーソナリティの発達）
第 10 回	遊びと健康（遊びの意義と性格）
第 11 回	遊びと健康（遊びの発達、おもちゃ）
第 12 回	生活習慣
第 13 回	食育
第 14 回	事故防止
第 15 回	総括
第 16 回	試験

到達目標

以下を理解すること。

・子どもの心を受けとめること、そして、吟味された遊びの環境を用意することが、子どもの健康（身体的、精神的、社会的）を育む上での土台となる。

履修上の注意

気軽に発言すること。

予習復習

何度も復習すること。

評価方法

授業態度（出席状況、授業貢献度）、レポート（800 字程度×1 本、授業内に実施）、試験で評価する。

テキスト

【教科書】高橋弥生ほか編著 「新・保育内容シリーズ1 健康」 一藝社 2010

【参考書】衛藤隆ほか編集 「新しい時代の子どもの保健」 日本小児医事出版社 2014